

令和5年度日本遺産審査・評価委員会 議事要旨

○第3回委員会

1. 日 時 令和5年10月5日(木) 10:00~12:00
2. 場 所 文部科学省東館 5階 5F6会議室及びオンライン
3. 議事要旨

議事に先立ち、再審査のスケジュール、委員会の進め方について確認が行われた。

(1) 現地調査の報告について

平成29年度認定地域のうち第1回の委員会において再審査となった【「江差の五月は江戸にもない」】、【「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」】の2地域の現地調査について、説明が行われ、意見交換が行われた。

(2) 条件付き認定地域の取組について

昨年度、総括評価・継続審査によって認定地域(条件付)となった【「いざ、鎌倉」】、【「なんだ、コレは！」 信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化】、【森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ】の3地域の取組状況について説明が行われ、意見交換が行われた。

(3) 条件付き認定地域及び候補地域における評価の進め方について

資料4「条件付き認定地域及び候補地域における評価の進め方(案)について」に基づき説明が行われ、意見交換が行われた。有識者委員による意見及び事務局からの回答の概要は、以下のとおり。

- 委員より、来年、最初の評価が始まるため、様子を見る必要があるが、日本遺産の認定の取消しが無ければ、候補地域をどうするかということを考えていかなければいけないとの意見。
 - 事務局より、評価表に基づき点数をつけていただく形となるが、どのような評価になるかは現時点ではわからない。また、点数が近接した場合、さらなる検討が必要である旨を回答。
- 委員より、日本遺産の認定を取り消す場合、その判定というのはかなり気をつけなければいけないとの意見。
- 委員より、絶対評価をした結果を相対評価しようとしているため、結果・評点が出てみないとどうなるかわからず、相対比較になる部分を整理できるかどうか不安もあるとの意見。
- 委員より、候補地域については、昨年、状況報告があったものの、今年度末に提出物が出てきて初めて委員が整ったものを見ることとなり、昨年時点からスト

ーリーをかなり変えてくる地域もあり得ることを踏まえれば、候補地域の状況なるべく早めにつかんでおきたいとの意見。

- 委員より、入替えが起こらず、認定件数が増えるだけの結果になった場合に与え得るメッセージを考えると、相対評価は難しいが、何らかのやり方を考えなければいけないとの意見。
- 委員より、判定の結果によっては、新たに候補地域が増えてくる可能性があり、これから先の展開に影響を与えるとの意見。
- 委員より、条件付き認定地域について、委員会から指摘をしたにもかかわらず改善に取り組まないのならば、日本遺産である必要がないという判断はある。そうしないと他の地域も取り組まないとの意見。
- 委員より、100件という綺麗な数字を目指すことは、基準に満たないところを取り消していくというなら、あり得る目標値ではあるとの意見。
- 委員より、日本遺産に関して、自治体からの相談はないのかとの質問。
 - 事務局より、令和3・4年度に候補地域に申請したところについては、引き続き申請したいという意向はあり、また、電話での問合せもある旨を回答。
- 委員より、総括評価の仕組みを導入して3年経過し、日本遺産としての取組みの重要性は各地域に伝わっているが、総括評価は、地域の縦割りを解消するにはいい制度であるとの意見。
- 委員より、日本遺産の人気のない理由として、しっかりと整備していないからだという意見。
- 委員より、ストーリーというものが非常に曖昧で、わかりにくくしているのではないか、また、キャッチコピー的なものは意味がなく、ブランド力ができるとは思わないとの意見。また、認定されたタイトルも見直した方が良いのではとの意見。
- 委員より、マーケティング、情報発信、キャッチコピーなど、集客のPR感覚で取り組む例が見られるところ、本来であれば、現場を仕上げていくということは、ストーリーをそこで説明してくれるということが出発点であるのに、キャッチコピーさえ作れば十分かのような考え方で、軽く取り組んでしまっているとの意見。
- 委員より、海外の人が日本遺産のリストをみて、行きたいと思うのは、地域・ポイントと何を学ぶかということであるとの意見。また、ストーリーのタイトルを面白くしたいという意図は、伝わらない場合が多く、英語にしたら誰もわからないとの意見。

(4) その他について

今後のスケジュールについて、説明が行われた。